

# 鹿児島方言の特徴

## アクセント

鹿児島方言は一般的に、単語の最後から2番目の音節を高くする「A型」と最後を高くする「B型」があります。これは、鹿児島弁でない言葉を使うときにも見受けられます。

### A型

オナゴ (女) あめ (飴)  
カゴツマ (鹿児島) さくらじま  
かごしま

### B型

アンベ (具合) あめ (雨)  
クツゾコ (靴底) たねがしま  
やくしま

## 音韻の変化

aiがeに変化します。また、語尾の「ニ・ヌ・ノ・ミ・ム」は「ン」になることが多いようです。

大根 (daikon) → デコン (dekon)

犬 (いぬ) → イン



## からいも普通語

「私は鹿児島弁は話さないよ」と思っていますか？その言葉、実は方言だったんです。鹿児島県人が公用語として(だと思って)話す「語り口」を「からいも普通語(標準語)」といいます。

からいも普通語	共通語
楽しいでした	楽しかったです
ほうきで掃わく	ほうきで掃く
一緒に行くが	一緒に行こう
〇〇さんだがね	〇〇さんじゃないですか
明日は休みけ?	明日は休みですか?
後でいいが	後でいいです

## 古語の名残

古語が語源といわれる言葉が多く見られます。

古語 鹿児島方言  
 あたらし(もったいない) → アッタラシ  
古事記、万葉集 など  
とぜん 徒然(ものさびしい) → トゼン  
徒然草  
 おらぶ(叫ぶ) → オラブ  
万葉集

## 丁寧語・敬語

方言にはあまり敬語がありませんが、鹿児島方言は話す相手が目上などの場合に使う敬語表現などがあります。また、敬語表現に段階がある言葉も。

(してください) (ありがとうございます)  
 シャッタモンセ アイガトサゲモシタ  
 シャッタモンシ  
 シャンセ アイガトゴワス  
 シヤイ  
 セエ アイガト  
 (しろ) (ありがとう)

## 促音化

語中の文字が「ッ」に変化します。

クツ(靴・ロ・来る など)

コツゴ(国語)



## 接頭語の多用

強調を意味するなどの接頭語が多く使われます。

ヒツタマガツ(びっくりする)

ウッチョク(置く)

坂田さんの著書「かごしま弁入門講座」を参考にさせていただきました。



# 「方言」



その地域や地方の生活と深く結びついている「方言」。ここでは、そこに住まう人々の口と耳によって伝えられてきた方言について触れます。

私が教員の頃は、子どもたちの間で「方言はダサイ」という印象がありました。鹿児島県では、高度経済成長長期に都会へ就職するために共通語を使うように推奨していた時期があり、そのために方言を話さない世代ができて、方言離れにつながってしまった歴史があります。しかし2000年頃を境に、全国的に「方言は守っていくべき文化だ」という風潮が生まれ、現在は学校のカリキュラムにも方言についての内容が盛り込まれるようになりました。

ひと口に鹿児島弁といっても、薩摩、大隅、離島でも違い、さらに同じ大隅地域内でも通じない方言があります。

鹿児島県の方言には

- ・ 単語の最後もしくは最後から2番目にアクセントが付く
- ・ 古語が語源のものがある



さかた まさる 坂田 勝さん

鹿屋市出身。市内では下名小学校や大黒小学校、寿小学校で教員を務めた。自然が好きで、ふるさと鹿児島や大隅の魅力を再発見してもらおうと、自身のホームページで「ふるさと情報室」を公開中。 ▲ふるさと情報室



・丁寧語や敬語がある  
 といった特徴が挙げられます。また、共通語を話しているつもりでも実は「からいも普通語」と呼ばれる方言だった、ということがあり、鹿児島に住んでいれば誰しもが自然と鹿児島弁を使っているくらい生活に溶け込んでいます。

他県から来た人にとって難しいのが、鹿児島弁を話す年配の方々のコミュニケーション。私は介護職員初任者講座で「介護におけるコミュニケーション技術」という研修を行っているほか、わらべ歌などの音楽を通して子どもたちに方言を伝える活動を行っています。

方言はその地域に根づく大事な文化。言葉に温かみを感じ、相手との距離も縮まります。これからは鹿児島弁という価値ある文化を後世に残していこうと思います。